



園の保育観を入園前の保護者にも わかりやすく伝えるには？

園の保育を在園児の保護者だけでなく、未就園児の保護者にもわかりやすく伝えるには、園の理念をより明確にして伝える工夫が必要です。自園の保育のよさを伝え、子どもの育ちに対する保護者の理解を促す理念の発信について考えます。

インタビュー

保護者の期待や不安をくんだうえで、 園の理念を伝え、保育への共感を深める

入園前の保護者に園の保育を理解してもらい、入園後に協力を得やすくするためには、どのような発信を心がけるとよいのでしょうか。
東京大学大学院教授の秋田喜代美先生にポイントをうかがいました。

保育観を理解した保護者は 園に協力的になる

入園前の保護者に対して園の理念を伝えることは、子どもの育ちを支えていくパートナーシップづくりの意味でも大切です。園の理念を十分に理解した保護者は、入園後、園に対して協力的になり、連携して子どもを育てる関係を築きやすくなるからです。

入園前の保護者に理念を伝える主な場としては、入園説明会などがあります。入園説明会では、園長先生などが園の理念や方針などを話すと思います。それらは説明会の柱となる重要な内容ですが、園からの一方的な情報発信になっていないかを今一度振り返るとよいでしょう。

入園前の保護者は、期待と不安の両方が入り交じっています。園生活

を通した子どもの育ちに期待する半面、「食事や友だち関係は大丈夫か」「他の子どもに比べて成長が遅れがあるのではないか」「他の園では、こんなこともやっているようだ」といった、一人ひとりの子どもや家庭の事情に応じたさまざまな不安があります。できる限り、そうした不安に寄り添った発信、コミュニケーションを目指したいものです。

では、園の理念をわかりやすく伝えるポイントはどのようなものか、具体的に考えていきましょう。

ポイント 1
園の思いを「伝える」だけでなく保護者の思いも「聴く」

こうした保護者の気持ちに応えるには、園が「伝える」だけではな

く、保護者から「聴く」姿勢をもつことも大切です。しかし、入園前の全体説明会で挙手して質問してもら



東京大学大学院教育学研究科教授
秋田喜代美

あきた・きよみ

日本保育学会会長。専門は保育学、発達心理学、教育心理学、教師教育。著書に、「保育の心もち」「保育のおもむき」（いずれもひかりのくに）など。

うというやり方では、なかなか話せないという保護者もいます。そこで、グループに分けて説明会を実施するのもよい方法のひとつです。全体説明会よりも保護者が意見を言いやすく、不安も払拭されやすいでしょう。「子育てについて、どんなことでも話してください」という気持ちで迎え入れることは、そのまま園に対する信頼感や安心感につながるでしょう。

また、グループであれば、一緒に園内を回って子どもたちの姿を見てもらいながら、保育について具体的に説明することもできます。例えば、はさみで何かを作っている子どもがいたとしましょう。保育者から説明がなければ、特に気にも留めない場面かもしれません。ここで保育者が「最初からはさみを使えただけではありません。発達段階に応じて遊びのコーナーを設けることで自然に使えるようになっていきます」といった解説をすれば、どのように子どもの育ちを促しているかという説明になります。

このように何げない保育の一場面を切り出して、ねらいを伝える中で、保護者は、保育者という「専門家」に委ねることの意義を感じてくださるでしょう。

ポイント 2
ふだんの保育や行事について「なぜそうするのか？」という理由を伝える

遊びを中心とした日常の保育や行事などの活動のねらいを言語化して伝えることも大事です。「〇〇

入園前の保護者に保育観を伝えるための 4つのポイント

- ポイント 1 園の保育観を「伝える」だけでなく、保護者の気になることを「聴く」姿勢も大切に
- ポイント 2 日々の保育や行事のねらいを言語化する
→育ちのストーリーを話し、遊びなどを通して育つ力を説明したり、視覚的に伝えるとわかりやすい
- ポイント 3 長期的な見通しをもって、子どもの成長プロセスを語る
→社会の動向を踏まえ、これからの子どもに必要な力を伝える
→すり傷やいざこざなどの育ちに必要な経験についてもきちんと伝える
- ポイント 4 「園長の思い」ではなく、「園の思い」として、より具体的に伝える
→卒園した子どもの様子や声、卒園生の保護者の声などで説得力をもたせる

ポイント 3
子どもの成長について長期的な見通しをもって語る

ができた」などの目に見えやすい活動はねらいが伝わりやすいのですが、保護者に「遊び」のもつ意味や大切さを理解してもらうためには、十分な説明が必要です。なかには、「遊ばせているだけで本当によいか」といった不安を抱く保護者が少なからずいることも念頭に置いてください。

行事などの活動のねらいも、きちんと説明しましょう。例えば、代々続いている活動がある園では、「うちの伝統です」と言うだけではなく、「どのような力が育つのか」「子どもがどのような表情を見せるのか」など、子どもの具体的な姿とともに伝えましょう。

遊びについて話す際は、今後の社会動向を受けて、子どもたちに必要な力（例えば、OECDが提唱している21世紀の知識基盤社会に向けた「キー・コンピテンシー（主要能力）」（※）などを例に出し、そのうえで「幼児期にどのような力を育てたいか」を伝えると、遊びを大切にしている理由の説明に説得力が増すと思います。それは、園長先生や保育者たちが、幼児教育についてきちんと学び続けているというメッセージにもなるでしょう。

※「キー・コンピテンシー（主要能力）」とは、これからの社会に必要な力で「社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力」「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」「自立的に行動する能力」の3つのカテゴリーで構成されたものです。



また、具体例を出し、遊びの中で育つ場面を説明することも心がけましょう。「何かに出会い、心を動かされ、こんな言葉が出て、こうした行動につながった」などと育ちのプロセスを話すことで、一般の人にはなかなか見えづらい、遊びを通して育つ力を伝えられます。「保育者は、そこまで丁寧に子ども一人ひとりを見てくれているのか」という安心感にもつながるでしょう。

さらに、子ども同士のいざこざやすり傷といった、保護者にとっては一見マイナスに感じられる経験がもたらす成長や、集団だからこぞできる学びについても、理由とともにきちんと話しておきましょう。

このような話をする際は、子どもが遊んでいる姿を記録したビデオや写真を見せて、「こういう遊びを通して、こんな力が育っていきます」と、視覚的に伝えるのもわかりやすい方法です。



園した子どもの保護者からのメッセージなど、園としての思いや願い、それによって成長した子どもたちの声も伝えるようにするとよいでしょう。

若手保育者が多い園の場合、「若い先生で大丈夫かな」という不安を抱く保護者もいます。園全体でフォローしたり、高め合いながら保育に取り組んでいる姿勢を伝えることで、そうした不安を軽減できるようにしましょう。

保護者の信頼感は日々の保育から育まれる

近年は、入園前に園のホームページも閲覧する方が多くいます。そこでホームページでのメッセージにも気を配るといいですね。

理念を伝えることは大切ですが、

単にそれを書き連ねるだけでは、どのような力が育つのが伝わりにくいものです。例えば、園長先生が、その日に印象的だった子どもの姿をブログに書くことで、保育の内容をより具体的に伝えられるでしょう。また、ホームページに写真をつけて更新すれば、園の保育の雰囲気もより伝わりやすくなります。

誠実に保育に打ち込む姿は、保護者の心を打ち、必ず信頼感に結びつきます。保育は一過性のものでなく日々の積み重ねですので、保育室の環境や飼育栽培の状況など、保育観は園内の随所に表れ、一人ひとりを大切にしているという思いはきちんと伝わるでしょう。「日頃の保育を飾りなく見てもらえれば」と、ぜひ自信をもって保護者に臨んでいただきたいとします。



◎保護者は、保育者たちが学び続け、育ち続けている園の風土を感じ、子どもを通わせたいと思うものです。ですから、常に園全体の成長を心がけるとともに、自信をもって質の高い遊びや保育をつくり出すように心がけてほしいと思います。そうすれば、きっと保護者の心を引きつけることができるはずです。

ポイント 4 「園長の思い」ではなく「園の思い」として伝える

保育観を伝えるうえでは、「園長の思い」を強調しすぎないように注意する必要があります。あくまでも園の代表者として、「園の思い」を伝えるというスタンスをもってください。

そのためには、ふだんから、保育者や保護者の声に耳を傾ける必要があるでしょう。保育者が大切にしている言葉かけや関わり、また卒園した子どもたちの様子や声、卒

座談会

価値観が多様化する保護者にどのように保育観を伝えるか

価値観の変化や多様化に伴い、未就園児の保護者の関心やニーズは変わってきています。園の理念や実践を効果的に伝えるためには、そうした変化を見逃さないことが大切です。未就園児の保護者と接するうえで心がけていることについて、おふたりの園長先生にうかがいました。



立花愛の園幼稚園 (兵庫県・私立認定こども園) 園長 濱名 浩 はまな・ひろし

あけほの幼稚園 (大阪府・私立認定こども園) 園長 安家周一 あけ・しゅういち

ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室 顧問 磯部 頼子 いそべ・よりこ

保育を「サービス」ととらえる風潮も

磯部 本日は未就園児の保護者に園の保育観を伝えるにあたり、園ではどのような工夫をされているか、保護者の意識も踏まえてお話をうかがえればと思います。最初に、未就園児の保護者に接する中で、近年感じる変化などがあればお話し

ください。

濱名 入園説明会では、以前に比べ、「保護者支援」について質問されるかが増えたと感じます。例えば、「預かり保育はあるか」「給食は週何回あるか」など、「より便利に」預けたいという保護者の意識が反映された質問があります。

安家 保育という営みを「サービス」ととらえる風潮が一部に広がっ

ているのかもしれませんが。サービスという考えが強くなると、消費者の立場から「権利」が主張されることがあります。しかし、幼児教育や子育ては、園と保護者が手を携えて進めていくものであり、サービスという考え方は相容れない面が強くなります。未就園児の保護者には、「家庭と園とは、一緒に子どもを育てていくパートナーの関係です」という



メッセージを伝えています。

磯部 確かに、事前に納得してもらうことで、入園後の保護者との連携はより強固になりますよね。

濱名 未就園児の保護者から、「この園では、行事参加などで保護者は年何回、園に来る必要があるのか」と質問されることがよくあります。ときには、「あまり拘束されたくない」「ボランティアはしたくない」などと、直接言われることもあります。そのようなかたには、少しきつい言い方なのかもしれませんが、「保護者は『お客様』ではなく、一緒に子どもを育てる私たちのパートナーなのですよ」とはっきりとお伝えし、理解していただくようにはしています。一方で、「もっと子どもに関わりたい」という保護者も多くいらっしゃいますので、考え方が多様化していると言えるでしょう。

孤立化する保護者を受け止め 関係を築いていく

磯部 保護者の変化の背景にある

子育て環境は、どのように変わってきていると感じますか。

濱名 孤独に子育てをされている保護者が多いという印象を受けます。一時期に比べ、地域のサークル活動の勢いも弱まっているようです。そこで未就園児の子育て広場など、まずは保護者同士がつながれる場を提供することに努めています。

安家 私の園でも未就園児クラスに力を入れていますが、大切なのは、その集まりが盛り上がるよう、活動を促進させていく役割（ファシリテーター）を保育者が担うことです。親子をその場に集めるだけで、専門家が関わらないのでは、公園に集まるのと変わりませんから。

活動を促進させていく際は、保護者は子育てに関する「回答」を求めて未就園児クラスに来ているのではないということに注意しています。今はインターネットや雑誌などに情報があふれ、検索すれば、すぐに回答を得られます。しかし、回答を知ったとしても、子育てへの不安やつらさは収まらないのです。最初に「子育てはひとりで簡単にできる仕事ではない」ということを伝え、「あなたはすごい仕事をしている」と、認めて受け止める姿勢が重要だと思います。自分が認められて自信がわくと、心のスペースが開いて園からの情報も素直に受け止められるようになると思います。

磯部 場を提供するだけの子育て支援では、なかなか人が集まらないという話も聞きます。保護者は、保育者をはじめとした専門家によるサポートを求めているということなのでしょう。

濱名 「無理しなくていいんですよ」というメッセージも大切にしています。山登りにたとえるのなら、園は保護者に対し、「あの山と一緒に登りましょう。頂上から、こんな景色が見えますよ。私たちも一緒に登りますから、安心してくださいね」と、常に伝えることが大事だと思います。それが、子育てのパートナーであるということではないでしょうか。

保護者の協力が子どもにとって プラスになることを伝える

安家 保護者の変化としては、保護者同士の付き合いに苦手意識をもつかたが増えていることもあるでしょう。未就園児の保護者から、「親同士の付き合いは大変ですか」という質問をよくいただきます。それに対し、保護者同士の付き合いが濃密であることは否定しません。そのうえで、行事やイベントなどで協同して理解し合うことによって保護者自身も楽しみながら成長し、子ども



を育てるよりよい環境がととのっていくというプラス面を理解していただきます。どのような行事に協力していただくかも、就園前に十分にお伝えします。

濱名 特に、新興住宅地などに移ってきた新しい保護者は、地域での人間関係が希薄なこともあって、保護者同士の付き合いに難しさを感じることがあるようです。そうした状況も踏まえて説明するように気をつけています。

ケガやけんかの背景にある 成長の意味を説明する

磯部 子どものケガに神経質になっている保護者もいます。そのあたりは、どのように説明しているのでしょうか。

安家 私の園では、理念などをまとめた冊子で、園がケガについてどう考えているのかも詳しく説明しています。能動的に遊んでいるときにしたケガは、子どもにとって勲章のようなものでもあります。ただ、ケガはデリケートな問題ですから、事前によくお話して理解していただくことが大切でしょう。

濱名 ケガを避けたいあまりに、危

険がない環境だけを与えていたら、逆に成長が阻害されるということをお話します。

ケガの他に保護者がマイナスにとらえやすいことに、けんかもありますよね。自分の子どもにはけんかをしてほしくないという気持ちも理解できますが、けんかは成長過程に欠かせません。一見、マイナスに思えることに大きな意味があることは、十分に説明しておくことが大事でしょう。

磯部 小さなケガもしないようにしていると、逆に大きなケガをしてしまうこともあるようです。ケガもけんかも現代では園だから経験できることでもあるので、成長における意味を保護者に伝えていきたいですね。

地域への貢献意識が 地域の目を園に向ける

磯部 他に、未就園児の保護者に保育観などを伝えるうえで大切にされていることをお聞かせください。

濱名 「園を信頼して預けてほしい」といった話をします。保護者が保育者を信頼してくれなければ、子どもも保育者を信頼しないからで

す。もちろん、信頼していただくためには、言葉だけでは不十分です。「こういう道^{など}を辿って、このような姿を目指しましょう」と、園が子育ての目標を具体的に指し示していくことから、信頼関係は育まれると思います。

安家 園は保育を実践するだけではなく、その内容を伝える努力を忘れてはならないと思います。そのために、私の園では冊子を作ったり、ホームページやブログなどの媒体を活用したりしています。さらに、園児募集という観点よりは、地域貢



献という視点から園を開放することで、結果的に地域の目が園に向いてくるのではないのでしょうか。

磯部 未就園児の保護者の思いや不安を受け止めたうえで、園としての考えを発信していくことの大切さがよくわかりました。本日は貴重なご意見を、どうもありがとうございました。



事例 1

保護者の不安や誤解にも向き合う中で 保育観や人間観を共有

あけぼの幼稚園 (大阪府・私立認定こども園)

半世紀以上にわたり、自由な「遊び」にこだわった保育を実践してきたあけぼの幼稚園。保護者と心をひとつにして、「10年後、20年後に実を結ぶ」保育を目指しています。そのために、保育観をまとめた冊子を活用するなどして、未就園の時期から保護者と目線を合わせることに力を入れています。

保育の「根っこ」となる 考え方を冊子として整理

1954年の設立以来、あけぼの幼稚園は、「自由な人間になる」という教育理念を掲げ、幼児期の「遊び」の大切さにこだわった保育を実践してきました。一見、遠回りに見えても、10年後、20年後に実を結ぶことを願う「人生の畑づくり」が、子どもの伸びやかな成長につながるという考えをもっています。

そのような保育は、最も身近な環境である家庭と園とが心をひとつにすることで、初めて成立するというのが園の考えです。そこで、就園前の時期から保護者に保育の理念を伝え、共有することを大切にしています。

入園希望者に販売される書類セット(500円)の中で、ひときわ目を引くのが、『あけぼの』という生き方—ようこそ「あけぼの子育て村」へ』(A5サイズ・36ページ:図1)と題されたフルカラーの冊子です。2012年、園の理念を保護者、保育者とともに再確認することを目的として発行されました。園長の安家周一先生は、次のように話します。

「現在、6施設を運営し、園児数は600人を超えます。保育者をはじめとしたスタッフは約170人に上るため、園としての考えを冊子にまとめて共有を図りたいと考えました。いわば、保育を考えるうえでの『根っこ』となる部分です。この冊子を題材として学年ごとの保育者で読み合わせをするなど、研修にも活用しています」

子どもと大人がともに「よく生きる」大切さを伝える

冊子は、保護者に対して園の保育観を伝えることを意識した読み物風のわかりやすい内容となっています。

園の基本的な考え方を表した項目のひとつが、『『よく生きる』という権利』と題されたものです。ここでは、最初に「人は『よく生きる』権利を有している」と述べたうえで、「保護者が『よく生きよう』としていると、その親を見て育つ子どもは、当然『よく生きよう』とします」と説明し、子どもとともに大人が育つことの重要性について語っています。

「そもそも、保護者の誰もが、初めは親としては『初心者』です。そ

園長 安家周一先生



のことを意識し、肩の力を抜いて、『ともに育つ』という気持ちが大切だと伝え続けています」(安家先生)

「ケガ」について 子どもの面から見た効用を伝える

保護者の心配の種である「ケガ」についても、「子どもには『ケガをする権利』がある」という項目で丁寧に説明しています。ケガは決してマイナス面があるばかりではなく、「子どもたちは能動的な遊びの中で、さまざまなケガに遭遇し、その経験から慎重さを身につけます。そのような意味から、小さなケガは、大きなケガの最大の予防となる」というのが園の考えです。

ある子どもが、保育中、額にケガをしたことがありました。連絡を受けて駆けつけた保護者に安家先生が謝罪をすると、「子どもには『ケガをする権利』がありますから、当然

のことです」と返されました。安家先生はそれを聞いて、園の考えが保護者に深く理解されていることを実感したと言います。

他に冊子は、「『子ども中心』である」(大人の都合や価値観はそれぞれだが、子どもを中心に育てること、育つことに価値をおくという考え方)、また「自然を生きる=不便、不足、不快、不潔からの学び」(便利で、満ち足り、快適で清潔な無菌の環境では、力強い子どもの育ちは達成できないという考え方)などの項目で構成されています。

「設立から約60年が経過した2012年の時点の考えや思いをまとめています。これで終わりということではなく、さらなる保育の充実を求



め続け、随時、改訂していきます」(安家先生)

不安や誤解を招きやすい「ウワサ」にQ&Aで答える

他に、未就園児の保護者が手にする書類セットの中でユニークなのが、

「あけぼの」に関するウワサ一覧」(図2)というプリントです。

「未就園児の保護者の間には、園に関するさまざまなクチコミが回っています。なかには、不安や誤解につながるものもあるため、保育者の耳に入ったウワサについてまとめて答えています」(安家先生)

例えば、よくあるのが、「親の付き合いが大変そう」というウワサです。

「確かに、保護者同士の関わりが強いのは特色のひとつです。そこでプリントの中では『クラス、地域、係などさまざまな場面で保護者同士の関わりがあるのは、同じ年代の子どもをもつ保護者同士が心を開いて、私たち保育者と一緒にあけぼのの保育をつくり上げていただきたいと考えているからです。最初からうまくいなくても、だんだん上手になりますから心配する必要はありません。あけぼのでできた保護者間の友だち関係は、卒園後も続いているようです』とお伝えしています」(安家先生)

書類セットには、DVDも含まれます。これは、保育者が、園の生活や行事を撮影した映像や画像をパ

図1 あけぼの幼稚園の教育理念をまとめた冊子



あけぼの幼稚園の理念を1冊にまとめた冊子『あけぼの』という生き方。保護者への発信であると同時に、保育に関わるスタッフにとってのよりどころでもあります。



図2 保護者の素朴な疑問に答えるQ&A (一部抜粋)

“あけぼの”に関するウワサー一覧
～真摯でもいいですか？～

1)「クラスでまとまって一緒に遊ぶことがないって本当？」
私達は、一日を通して子どもたちが自分の興味関心のあるものでじっくりと遊ぶように、自ら遊びを選択し、楽しむ、考えることのできる環境を設定しています。その中で、クラスのみならず遊び(集団遊びや一斉活動)も、一人で黙々と集中する遊びも、どちらも大切と考え、保育を組立立てます。家庭や地域では経験することができず、集団の場である幼稚園だからこそ経験できる「集団遊び」での育ちは、私達の考える保育の中でも大切なものです。仲間と遊ぶことはとても楽しい時間です。

2)「自由な時間ってあったらいいの？」
それぞれの子どもの興味関心に基づいて物事に取り組むことはとても大切なことだと思えます。また、何をしようかわからないために、周りの子どもに視線を向けたり、ポーズしたりする時間も貴重なことです。このような時間が保障されることがあけぼのの特徴でもあります。そのためにも、担任だけでなく全園児の特性や日々の様子を全職員ができるだけ知っていて、それぞれの場面で適切に声をかけたり、接したりする必要があります。ゆるやかな見守りの姿勢です。

3)「地まわりやルールを守ることを教えていますか？」
人間は社会を構成して生きる動物と言われます。その人間が園生活の中で決まりやルールを守ることはお互いに快適に生活するためにとても大切なことです。子ども達の成長段階にお互いに楽しく遊ぶには、ルールが守られなければなりません。強りばかりではみんなが楽しいとは思われず、嫌いなルールは守られなければなりません。強りばかりではみんなが楽しいとは思われず、嫌いなルールは守られなければなりません。強りばかりではみんなが楽しいとは思われず、嫌いなルールは守られなければなりません。

4)「うちの子はおとなしいから活発な子にいいから心配……」
活発な子もいればおとなしい子もいる。思春期を迎えるまでの子ども時代は、個性を全面に出せる、人生で唯一絶好のチャンスです。私達はその子らしさを最大限に尊重したいと考えていますので、それぞれに合わせた関わりを心がけます。初めての環境の中で、トラブルも起こり、嫌な思いをしたりすることもあります。私達は「事が起こる前」に大人が経験を持ってしまおうのではなく、「事が起きたとき」に子ども達と一緒に考え合い、解決していくことを大切に考えたいと思えます。



1歳の未就園児が保護者と一緒に参加する体験型プログラム「よちよちくらぶ」



「自由な時間とほったらかしの違い」など、保育者にとっては当たり前のことも、保護者の視点で丁寧にくみ取り、Q & A形式で答えています。

ソコンで編集したもので、より具体的に保育をイメージしてもらうためにつけています。

保護者や地域住民と協同し「ともに育てる」保育文化を築く

未就園児の保護者に園の保育観を伝える機会のひとつとなっているのが、子育て支援として実施している未就園児向けプログラムの「よちよちくらぶ」(1歳児)、「たけのこランド」(2歳児)です。

「よちよちくらぶ」は、1期6回、親子と一緒に楽しむ参加型のプログラムです。「たけのこランド」は、1期10回、親子で参加したり、子どものみで実施したり、徐々に遊び

を広げていきます。どちらも、保護者同士が交流したり、安家先生をはじめとした保育者が育児の助言をしたりする時間を大切にしています。

「地域の子育て支援をしたいという気持ちから始めたプログラムです。参加者の中には、私たちの保育観や人間観に共感して入園してくださる方もいます」(安家先生)

特別な募集はしていませんが、クチコミにより、毎年応募者多数で抽選となっています。

「保護者は、『いいな』と思ったことは、必ず周囲に伝えてください。より多くの保護者や地域住民の共感を得て輪を広げていくことで、地域とともに子どもを育てる文化を築いていきたいと思っています」(安家先生)

あけぼの幼稚園
◎教育理念は「自由な人間になる」。そのために自由な時間や遊びにこだわった保育を実践する。2009年に認定こども園として認可され、あけぼのこ保育園を併設する。

園長 安家周一先生
所在地 大阪府豊中市南桜塚2-14-7
園児数 214人(3~5歳児)



事例2 データや事実を織り交ぜた説明で、漠然としがちな保育理念をイメージしやすくする

立花愛の園幼稚園 (兵庫県・私立認定こども園)

立花愛の園幼稚園は、「あと伸びする力」を育むことを目指しています。あとから育つ力の下地をつくるのがねらいのため、保護者にも長期的な見通しをもってもらう必要があります。入園説明会の様子から、保育の理念や実践を具体的にわかりやすく説明する工夫をご紹介します。

自分で人生を歩む力 子どもに育みたい

立花愛の園幼稚園の保育理念は、「あと伸びする力」を育むことです。園長の濱名浩先生はこのように説明します。

「いろいろなことが早くできるようになっても、すぐにしぼんでしまう力では意味がありません。ゆっくりとでもいいので、生きるための力を確かに育てることを目指しています。そのためには、大人がレールを敷くのではなく、子どもの心に火をつけて、つまずいても自分の力で歩んでいける力を育てたいと考えています。それが『あと伸びする力』です」

「あと伸びする力」を育む保育は、すぐに何かをできるようにすることを目標としていません。そのため、保護者にも長い目で見てもらい、丁寧な説明が求められ

ると言います。

『「あと伸びする力」は、見えにくいものです。そのため、保護者に対して『こういう力がつきます』というわかりやすい説明はできません。子どもの発達段階を踏まえ、『この時期には何を大切にしているか』という保育の根本にあるねらいを理解してもらうことから始めています」(濱名先生)

データや事実を織り交ぜ 子どもの育ちの現状を伝える

未就園児の保護者に保育理念や具体的な実践を伝える機会となっているのが、毎年9月に実施する入園説明会です。入園説明会では、濱名先生が作成した資料(約40ページ)を使って約40分間にわたって説明します。

「保育理念は、どうしても漠然とした内容になりがちです。しかし、それでは、専門知識がない保護者



は理解できません。そこで、視覚的に訴えかけるデータや説得力のある事実を提示するように心がけています」(濱名先生)

入園説明会の内容を具体的にみていきましょう。

冒頭で現代の子どもの問題意識を共有するために提示するのが、「小学4~6年生のなりた人間像(国際比較)」(図1)というデータです。このデータは、東京の小学生のなりた人間像の数値が、外国に比べ、著しく低いことを示しています。

「海外の子どもに比べ、日本の子どもの意欲や勉強に関する関心の低さを知り、大きなショックを受ける保護者が多いです。最初に問題意識

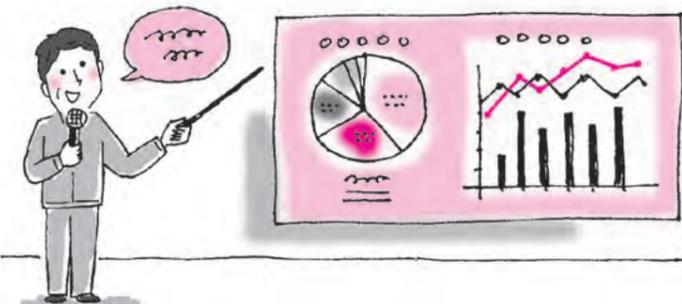
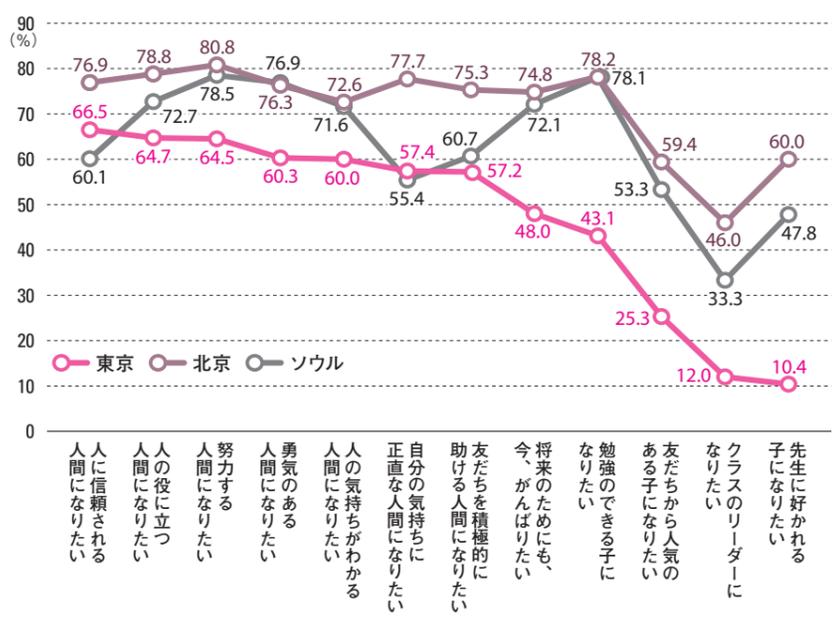




図1 小学4～6年生のなりたい人間像（国際比較）



注) 4段階の選択肢のうち、「そう思う」と答えた割合。
出典：財団法人日本青少年研究所「小学生の生活習慣に関する調査」(2007)

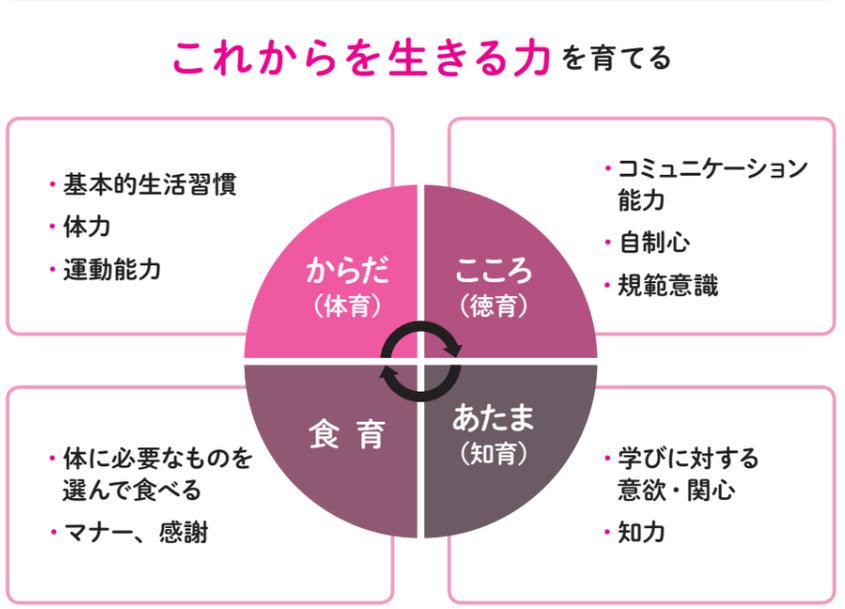
教育ではなく、自らの興味や関心に添い、友だちとともに、心と体に体験を刻み込んでいくことが『学び』であると考えています。私たちの保育を理解していただくため、この点については重点的に説明します」(濱名先生)

そうした方針のもと、「からだ(体育)」「こころ(徳育)」「食育」「あたま(知育)」の4つの領域を大切にしていることを、図を示して説明します(図2)。

保育の中で「学び」を促すために大切にしているのが「遊び」です。「遊び」という言葉もさまざまな意味をもち、保護者によって異なるイメージを抱くため、詳しく説明します。まず考えてもらうのが、ふだん、保護者が行う「公園での遊び」と「保育の中での遊び」の違いです。

「保護者が近所で遊ばせるなど、子ども任せの遊びでは、発達段階に見合った意味のある援助はなされ

図2 立花愛の園幼稚園が大切にしている4つの領域



を共有することで、『それでは、どのように育てればよいのか』というものを、一緒に考えてもらうのがねらいです」(濱名先生)

さらに、幼児教育について述べた文部科学省中央教育審議会答申の中で、子どもの育ちの変化として【基本的な生活習慣の欠如】【自制心や規範意識の不足】【コミュニケーション能力の不足】【小学校生活への不適応】【学びに対する意欲・関心の低下】が挙げられていることを説明します。ただし、ひとつずつ細かく解説すると専門的な内容になってしまうため、「こういう指摘がある」という程度の簡単な説明にとどめています。

「遊び」や「学び」は例を挙げて解説

続いて、保育を通した「学び」に

ず、その場限りの遊びになりがちです。これが『公園での遊び』です。園では、保育者が一人ひとりの子どもを理解して記録を作成し、必要な環境や経験を見通し計画を立てるなど、継続的な指導・援助が行われます。これが『保育の中での遊び』です。このように説明して『保育の中での遊び』とは『学び』に他ならないことを理解していただきます」さらに、「遊び」は、発達段階に応じて変化することも説明します(図3)。

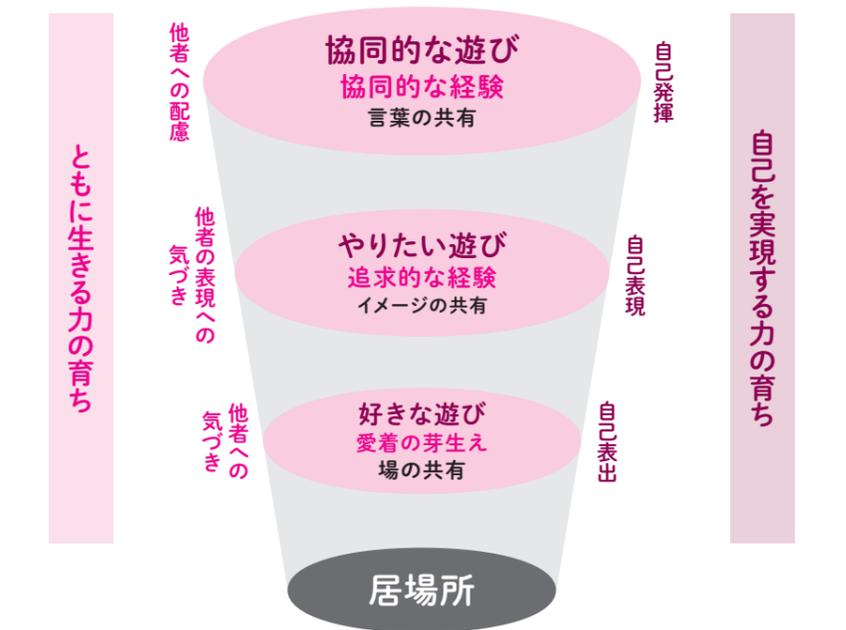
保護者が気になる文字、数は園ならではの獲得過程を提示

文字や数の習得も、保護者の大きな関心事です。そこで、遊びの中で、自然に文字や数を獲得していく姿を説明します。例えば、濱名先生は、このような実際にあった育ちを例示しています。

保育室にポストを置いたら、ある女の子が友だちに自分の描いた絵を渡そうとして入れました。受け取った子どもはどうしても返事を書きたくなり、家で保護者から文字を教えてもらい、『〇〇ちゃんへ』と書いてポストに入れました。このような簡単な手紙のやりとりが、じわじわとクラスに広がっていきました。

こうした説明により、大人が文字や数を教えるのではなく、子どもが自然に興味をもって自ら獲得するように促す支援に徹するという園の方針を理解してもらいます。

図3 発達段階に応じて変化する遊び



出典：文部科学省 平成21年度幼児教育の改善・充実調査研究「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」(全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会、兵庫県)

立花愛の園幼稚園

◎遊びを通した豊かな体験・生きた体験を重視した保育に取り組む。同市内で武庫愛の園幼稚園も運営。平成25年、「対話が育てるたくましく生きる力」をテーマにした保育実践で、第62回読売教育賞「幼児教育・保育部門」の優秀賞を受賞した。

園長 濱名 浩先生
所在地 兵庫県尼崎市立花町3-20-27
園児数 515人(3～5歳児)

